

あしぎん

# 経済月報 2018.8

The Ashigin Economic Monthly Report

**視点** 「生涯活躍」の人創りのための  
研究と活動をめざして

作新学院大学・  
作新学院大学女子短期大学部 学長 渡邊 弘 氏

【トップインタビュー・さすてなぶる】

## 杉田電線 株式会社

電線のエキスパートとして、確かな技術力と  
徹底した品質管理で、お客様の様々なニーズに対応する

【客員研究員レポート 第35弾】

## 地方創生に向けた公民連携のあり方

あしぎん総合研究所 客員研究員 児玉 博昭  
白鷗大学法学部教授

【調査レポート1】

## グローバルで進むEV化

100年に1度の大変革が地域産業に与える影響を考える

【調査レポート2】

## 栃木県の経済と産業構造の分析

製造業を切り口とした分析(1)

vol.111

株式会社 あしぎん総合研究所



## 「生涯活躍」の人創りのための 研究と活動をめざして

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部  
学長

渡邊 弘 氏



超少子高齢化の進展、第4次産業革命による産業構造の急激な変化、あるいは経済、教育、所得、地域の格差問題等が喫緊の課題とされる現代社会において、いま大学という存在自体の真価が問われている。すなわち、未知の諸問題に対して想像力を発揮し、多様な考えをもつ異分野の人々と協働し、コミュニケーション能力と主体性を発揮しながら新たな価値を創造し課題解決を図れる総合的な「人間力」を養っていくことを中心として、学修者に対する教育の質保証やガバナンスの強化、情報の開示、学び直しの体制の充実などを前提とした大学独自の改革が求められているということである。

平成29年度学校基本調査報告書によれば、大学全体の総数は国立大学（86校）、公立大学（90校）、私立大学（604校）計780校となり、そのうち私立大学の割合は77.5%を占めている。このようにわが国では、その約8割を占める私立大学（その内の約8割が地方私立大学）の存在と役割がとくにいま問われており、それぞれの私大がどのような特色を出しながら改革を進めていくかは、日本の社会や教育における大きな課題であるといえる。

今から約4年前の平成26年（2014年）に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、さらに内閣に同本部が設置され地方の活性化の取り組みが積極的に展開されることになったことは周知の通りである。その一つの具体的な取り組みが地方大学への支援であり、地方における若者の修学・就業の促進に向けて地方創生に資する大学改革が本格的に求められることとなった。

こうした諸状況を踏まえ本学では、今年大学が30年目、短期大学部が昨年50周年という節目の時期を迎えるのを機に、「作大・作短長期ビジョン2030」を策定し、特に今年度は「作新民」（時代の変化に対応し、自らを常に新しくできる人材を育てること）という建学の精神に基づき、独自の研究ブランディング事業を立ち上げ、学長主導の下、『「生涯活躍」の人を創る研究と活動を実践する作新学院大学』をブランドイメージとした。具体的には、地域に提供する本学の教育研究基盤の特色として「健康」を共通テーマに据え、経営（県内唯一の博士後期課程まで設置）、スポーツ（4プロとの連携等によるスポーツビジネス、健康マネジメント）、教育（小学校教諭免許と特別支援学校教諭免許を両方取得）、心理（県内唯一の臨床心理士、国家資格としての公認心理師養成）、保育（幼保一体化の免許資格取得）を横断的に連携させて事業を展開することによる地域貢献をめざしている。特に、①地域の健康社会を創る研究に着手し、②地域の健康社会を創る基礎講座の開講活動や応用分野の拠点活動を2つの柱として自治体や企業などと連携協力しながら展開していく。またその他の特色においても、現在、本学は県内の5つの自治体および9つの高等学校などと連携協定を結び、学生の就業インターンシップやフィールドワーク、ボランティア活動を実践しており、学内では少人数制を中心とした課題発見・課題解決型授業の実施、キャリアアップ、リカレント教育などによる学び直しの体制の充実に力を入れている。さらに地域貢献の一環として、減災・リスクマネジメント事業部会を中心として、大学で行う県内唯一の防災士養成研修講座の開講や学生消防団の結成などにより防災への啓発を図っている。

これからの私立大学が社会的な信頼を保って成長して行くためには、確固たる建学の精神に基づく教育と研究の実践が不可欠である。加えて、地域に役立つ人材を多く輩出することで、地域のいっそうの発展に貢献していくことができるのである。

### ●渡邊 弘氏プロフィール

1955年栃木県生まれ。1982年慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻博士課程中退、1994年国民学術協会賞受賞 2001年宇都宮大学教育学部教授、2002年宇都宮大学教育学部附属小学校校長併任、2009年宇都宮大学教育学部長、研究科長、2017年作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部学長 博士（教育学）